

# 注目！がん看護における最新エビデンス

## がん治療後の患者は COVID-19への感染により 死亡率が上昇するのか？

Brar G, Pinheiro LC, Shusterman M, Swed B, Reshetnyak E, Soroka O, Chen F, Yamshon S, Vaughn J, Martin P, Paul D, Hidalgo M, Shah MA. COVID-19 Severity and Outcomes in Patients With Cancer: A Matched Cohort Study. J Clin Oncol. 2020 Nov 20; 38 (33) :3914-3924. doi: 10.1200/JCO.20.01580.

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は高齢者や基礎疾患を持つ人では感染によって重症化しやすく、死亡率が上昇することが知られています。がん患者は抗がん治療の影響などで免疫機能が低下していることが多く、COVID-19による影響をより受けやすい可能性があります。そのため、COVID-19流行下では抗がん治療、特に免疫機能の低下の可能性のあるものについて、控えたり治療内容を変更したりすべきかという問題が生じます。

実際に、中国からの初期の報告では、併存疾患としてがんを持つ人の死亡率が心疾患、糖尿病、高血圧、呼吸器疾患などと同様に高いことが示されています<sup>1)</sup>。しかし、これらの報告では、年齢や性、併存疾患などCOVID-19の重症化や死亡率の上昇に関連する要因が考慮されていないため、現時点では結論づけられていません。

今回紹介する研究は、感染が大幅に拡大したニューヨークの2つの病院の救急外来を受診したCOVID-19陽性の患者について、6カ月以内に抗がん治療を受けた患者と6カ月以内に抗がん治療を受けていない患者（要するにがん患者以外の患者）のカルテデータを後ろ向きに調査したものです。年齢、性、併存疾患などの違いをマッチングという方法で調



宮下光令 教授

東北大学大学院 医学系研究科  
保健学専攻 緩和ケア看護学分野

みやしたみつりのり：1994年3月東京大学医学部保健学科卒業。臨床を経験した後、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻助手・講師を経て、2009年10月東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野教授。専門は緩和ケアの質の評価。

整するために、1人のがん患者に対して4人の抗がん治療を受けていないCOVID-19陽性患者のデータが用いられました。

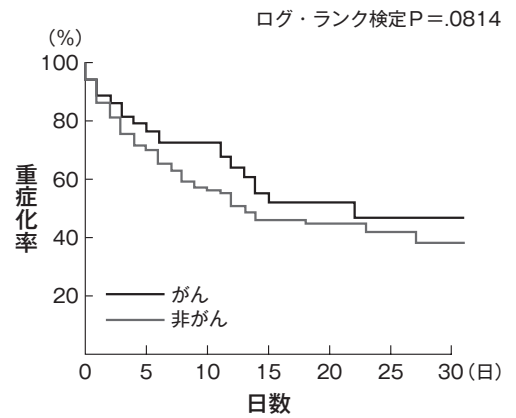
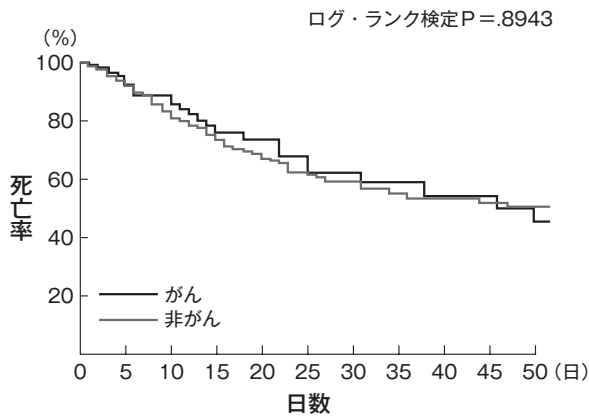
最終的に117人のがん患者と468人のがん以外の患者のデータが解析されました。全体の平均年齢は71歳、男性が55%であり、喫煙率や高血圧、糖尿病、心疾患、腎疾患、肥満などの合併症を持っている割合も2群でほぼ同じでした。がん患者の内訳は、固形がんが64%、血液がんが36%であり、6カ月以内に受けていた治療は抗がん剤治療が44%、ホルモン療法が27%、放射線治療が12%、手術が18%でした。

結果として、観察期間中にがん患者の24%、非がん患者の21%が死亡しましたが、がん・非がん患者の死亡率、重症化率には統計学的に有意な差はありませんでした（ $P=0.89$ ,  $P=0.08$ ）。重症化率については、固形がん・血液がんでの差もありませんでした。抗がん剤治療の有無による差もありませんでした。

これらの結果は、がん治療後であっても、そうでない人とCOVID-19の重症化率や死亡率は変わらないこと、要するに将来的なCOVID-19の感染リスクを考慮して抗がん治療を差し控える、変更する必要はないかもしれないということを示唆しています。中国からの先行研究とは結果がやや異なりますが、著

## 《図》死亡率および重症化率

※重症化率は死亡、人工呼吸器の装着、ICUへの入室のいずれか



者らはその理由を、高齢化の進展や米国では肥満の割合が高いこと、人種や社会経済状況、医療システムの違いなどで説明できるかもしれないとしています。

また、今後の抗がん治療のあり方に関して、若年であったり、併存疾患の数が少なく抗がん治療の効果が期待されたりする患者に関しては、慎重に治療を継続することを勧めています。しかし、転移があったり多くの併存疾患を抱えたりする高齢者の場合は、COVID-19の流行にかかわらず、そもそも抗がん治療の有効性があまり望めないことから、治療目標を再検討すべきケースがあるかもしれないとしています。

もちろん、この研究1つでこの問題の結論

が出るわけではありません。2020年には同様のテーマでいくつか論文が出ていますが、結論はさまざまです。それらの論文には小規模なものや、群間の比較可能性が不十分なものが多いので、今後のさらなる研究が必要な領域です。とは言え、がんへの罹患はCOVID-19の流行とは関係なく毎日起こっていますので、今回紹介した論文は、がん患者の治療法を検討する際や患者・家族の不安を解消する際の助けになると思います。

### 引用・参考文献

- 1) WHO. Report of the WHO-China Joint Mission on Coronavirus Disease 2019 (COVID-19). 2020.